

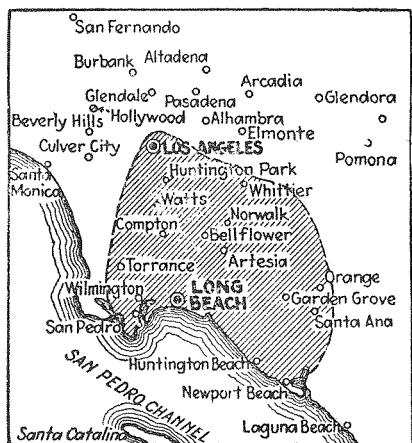
3月10日

カリフォルニアの大地震

太平洋を中にはさんで、小島國の日本と、大陸國のアメリカに、大蛇襲が頻發するのは自然の妙な對照である。地質學的に調べたら案外面白い關係が、この兩者の中に見出されるかも知れない。太平洋はその姿の洪洋たる如く、多くの祕密を抱いてゐるのだらう。その邊がまた太平洋戰爭などの空想される所以

かとも考へられる。

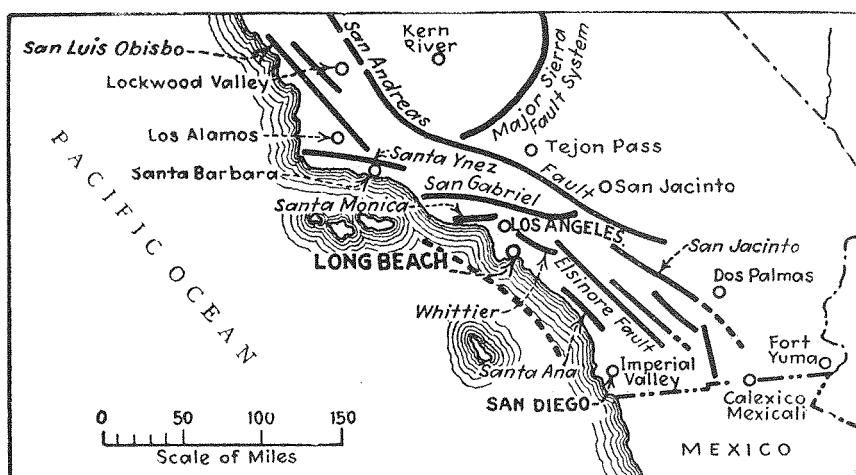
三月三日わが三陸の大地震直後、即ち三月十日に、アメリカ太平洋岸、カリフォルニア州の一地方を襲つた大地震は、サンベデロよりニウポートビーチに至る海岸から、奥はロスアンゼルス市に達する區域に被害を興へたが、中でも、ロングビーチ市とコンプトンに



第1圖 建物の被害場最も大なりし、ロングビーチ市及びコンプトン附近の區域圖。

X

第2圖 ロスアンゼルス地方の斷層を示す圖で、海中の點線が今度の地震の震源地として最初に發表された斷層である。



於て激甚を極めた。

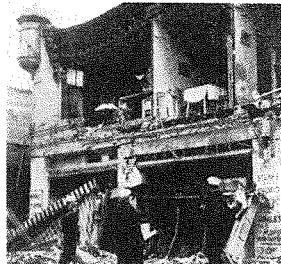
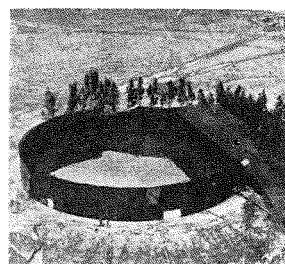
損害は最初約 5,000 萬弗、死者500と傳へられてゐたが、ロングビーチ市に於ける學校建築だけでも、八十五校が約 75 %の損害を受けた事が發表されるに至つたので、全體に於ける實際の損害額は可なり大きなものがあると見られる。

建築物中、最も被害の多かつたのは、二階建や一階建の、煉瓦積胸壁や蛇腹であつた。尤も、これ等の建築は、その構造が舊式で、建てゝから相當の年月を経た、古いものが多

く、何等の耐震的構造も持つてゐなかつたものである。

住宅では、舊式構造の古い建築以外には被害が割合少く、煙突が倒れたりした位のものであつた。これは住宅には高層建築が少いためでもあらう。然し基礎の弛みを來したことは、住宅に於ても全體的に認められた。

水道、瓦斯、電燈、電力等の供給機關には大した被害はなかつたが、しかし水道だけはまる三日間も斷水せねばならぬ程度の損害を蒙つた。



寫眞1 左はロスアンゼルス市附近の鉄綴された鋼製水槽の上部三個の端が破壊された後の状況。この破壊は地震による水の波動の結果と推測されてゐる。

寫眞2 右はロングビーチ市びコンプトン斯種舊式建築は殆んど凡てが修理出来ぬまでに破損した。

× ×
×
× ×



寫眞3 ロングビーチ市の一銀行である。之は永久的な近代建築であつたが然もこれ丈けの損害を被つた。

詳細の報告は後日にゆづるが、取りあへず近着の *Engineering News Record* 誌から、寫真及圖を轉載して、報道することにした。

×

大地震の被害は我國だけでも、近年に至つて著しきものがあるが、こゝに考へられるのは、その歴史的考察と、地質學的變化の問題である。これは權威ある斯界の學者の研究に俟たねばならぬこと勿論であるが、疑問を抱くことが進歩の一階梯だと云ふ見解から云へば、我々の持つ近代的構造なるものが、果し

て合理的なものであるかどうか、今一度改めて考へ直して見る要はあらう。そうして、地震が近年になつて頻發する様になつたのか、昔は竹の柱に茅の屋根的構造を持つてゐたがためにひどい被害がなかつたのか？も。こうした常識的疑問は、之で我等の技術に或る決定を與へる力を持つてゐるものだ。今度のアメリカの地震では舊式構造の建築に多くの被害があつたと云はれるけれども、鳴るのが面白いと云つて大きな太鼓を脊負はせるのは考へものであるから。

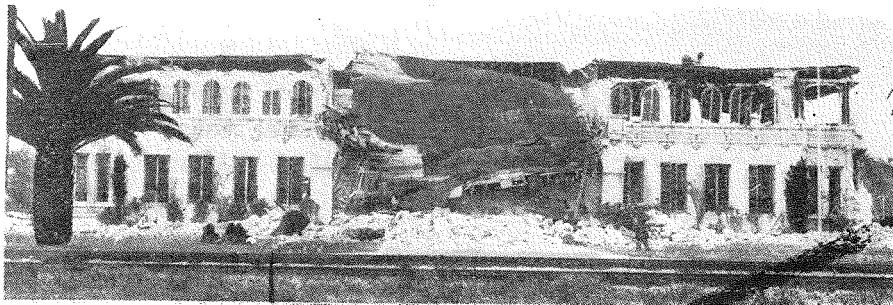


写真4 コンプトン市公会堂の被害状況である。斯種の支持壁及び胸壁を有する建物は被害が最も大きかつた。然し堅固な建物では石膏に少しの亀裂が生じた位であつた。

×



写真5 ロングビーチ市の一教會堂の隔壁が破壊された有様で、勿論耐震的な構造ではなかつた。

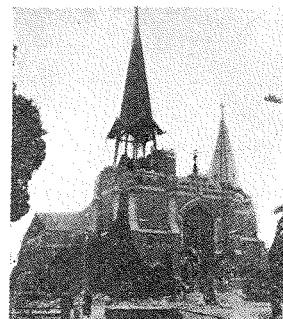


写真6 ロングビーチ市の代表的アパートメント・ハウスであるが、斯種の顛落した壁體は多くの人命を奪つたのである。